

皆様、おはようございます。

時に豪雨のような降り方があり、川は増水し、ゲリラ豪雨の恐ろしさを感じる時期になってまいりました。

新型コロナウイルスによる感染もどんどんと拡大しています。

どうぞご健康にお気を付け頂きたいと思います。

黙示録は2章、先週はエペソの教会に宛てた主のお言葉でした。

そして今日はスミルナです。

小アジア第一の都市エペソに引けを取らない大商業都市です。エーゲ海に突き出た半島には良き港がありました。小高い丘の上には競技場があり、湾を一望出来ました。エペソは川から堆積してきた土砂によって町を失ってしまいましたが、このスミルナは今日も、トルコのイズミルと言い、「エーゲ海の真珠」と称され、イスタンブール、アンカラに次ぐトルコ第三の都市です。

8 スミルナにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者が、次のように言われる。

「初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」であるイエス様が、この名高き町の中に住むキリスト者たちに語りかけます。

イエス様はすべての事の始まる前からおられ、そしてとこしえにおられるお方です。イエス様の前に人はなく、イエス様の後に人はありません。すべてはイエス様の手の中にあります。私たち人類がどんなに昔の昔をたどっても、そこにイエス様が、神様がおられないというところはありません。私たちがどんなに未来の先の先のことを考えたとしても、そこにイエス様が、神様がおられないという事はありません。

イエス様は時間の初めから終わりに君臨しておられる方のみならず、死をも乗り越えられたお方です。本来神様のひとり子が死ぬという事はあるはずがないのですが、イエス様は私たちと全く同じ人となられ、罪の身代わりとして人のすべての罪をその身に負い、十字架につき、そこに死なれ、黄泉に降られました。しかし主は死なれましたが、父なる神様のお力により復活なさいました。

この黙示録が書かれてからおよそ60年後、紀元150年のころ、ポリュカルポスという死とヨハネの弟子があの高台の競技場で殉教しました。

教会歴史家エウセビオスは彼の殉教の状況をよく伝えます。

カエサル礼拝の強要から迫害の嵐が吹きつのり老牧師ポリュカルポスは周囲の人々に嘆願されて郊外の家に難を避けました。老牧師はそこでわずかの友人とを起居して夜も昼も

世界の教会の平安を祈りました。

しかし、ちょうど捕らえられる 3 日前のこと、彼は自分の枕に火がついて燃え尽くす幻を見ました。ここに彼は自分がどうしてもキリストのために火炎の中で命を捨てなければならぬことを悟ります。やがて彼の居所を嗅ぎ付けた追跡者達は、家の二階に踏み込んできました。

十分逃げられるのに牧師は主の御心のままにと言って喜ばしげな和やかな顔で追跡者を迎みました。そして気兼ねすることなく一緒に食事をしました。追跡者たちはその高潔な人格に心打たれました。

それから、「心を乱されずに祈りをしたい」と 1 時間程猶予を乞うて祈りました。

追跡者の多くはこうまで神々しい敬虔な人を殺さねばならないことを残念に思いました。祈り終えた彼はロバに乗せられて街へ引かれました。

カイザルを礼拝せよと言わされました。彼は あなたの勧めるようなことはしないと答えた為、載せられていたロバから突き落とされて足をくじきました。

やがて競技場に、あのエーゲ海を見渡すパゴスの丘の競技場に到着します。

ポリュカルポスは主からの声を聞きました。ポリュカリポスよ強くあれ勇ましく戦えと。競技場の大騒ぎの中にもいく人かがその声を聞きました。しかし誰の声だかは知りませんでした。

やがて総督は老牧師に向かって命じました。

「キリストを捨てよ。」また「自分の年齢を考えてみたらどうだ」と。この時ポリュカルポスは 86 歳でした。

「カイザルの英明に誓え、悔い改めよ、神々を拒む者どもを追い払うぞ」と総督は叫びました。

けれどもポリュカリポスは競技場の群衆を指さし天を仰ぎながら「不信仰者をこそ追いやりたまえ」と言いました

それでも総督は何とかして説得しようとします。早く誓え。そうしたらお前を返してやるのに。キリストを罵りさえすれば良いのだ」と。

しかしここに老牧師は有名な言葉を語り出したのです。

「過去 86 年間私はキリストに仕えてきた。キリストは一度たりとも私に不真実なことはなかった。それなのにどうして私は私を救ってくださった主を今になって冒涜することができようか。」

ここで総督と牧師との問答です。

「私は野獸ども手元に持っておりお前が改心しなければこいつらをお前に投げ与えるぞ」

「どうぞ野獸どもお呼びなさい。私たちには良いものから悪いものへと悔い改める理由はないのです。かえって悪から徳へ変わっていくのが良いのです。」

何を言うか、もしもお前が獸を軽蔑して心を翻さないならばお前を火で焼き殺すことにする。」

「あなたがしばしの間燃えてすぐさま消えてしまう炎で私を脅かすのは、来たらんとする審判について知らず、悪人に加えられる永遠の刑罰の炎について何も知っておられないからである。何をぐずぐずしておられるのか。早くあなたのしたいことをなされよ。」
かくして火刑が処せられました。

ポリュカルポスは一本の木にくぎ付けにされようとしたが、「そのままに。火に耐えうる力を私に賜うお方は、そんな釘で取り籠めなくとも、薪の上にじっと動かすにいるだけの力を与えて下さる」と言ったので縛るだけにされました。

ポリュカルボスの最後の祈りが捧げられ、アーメンの声と共に火が放たされました。火は奇跡的にも壁のようになってポリュカルボスの周りに立つだけでした。そこで槍が繰り出されました。ほとばしり出た老牧師の血の為に火は消えかかるかに見えました。紀元155年ヨハネの弟子のポリュカルボスの最後です。　「小畠進　著作集より」

スミルナではこのような殉教がありました。この町の教会に、主より、「初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」と語りかけられるのは、なんとぴったりとくるのではないでしょうか。

9 わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている（しかし実際は、あなたは富んでいるのだ）。また、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられていることも、わたしは知っている。

この「苦難」という言葉は、激しい苦しみを意味し、重圧によって破碎されることを本来意味しました。そのような苦しみと、貧しさ。この「貧しさ」という言葉は、富んでいないというような意味ではなくて、「無一文である」という意味すら持つ言葉です。

2コリント 6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

その上、ユダヤ人と自称しながらその実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられている、嘲られ、ばかにされ、誹謗を受ける。

9 わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている。

…ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられていることも、わたしは知っている。

神様はすべてご存じの上で、スミルナの教会に宛てて、励ましの手紙を送っておられます。

10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちのある者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。

訴える者、告発する者。それが悪魔ですが、試し、獄に入れ、苦難を受けます。しかしそれと十日の間であるとあります。十は完全数ですが、それは永遠の長さではありません。二週間でも1か月でもありません。そして、やがていのちの冠を受けるのです。この冠とは、勝利した競技者に与えられる冠です。

1コリント 9:25 しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。

2:11 耳のある者は、御靈が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者は、第二の死によって滅ぼされることはない』。

マタイ 10:24 弟子はその師以上のものではなく、僕はその主人以上の者ではない。

10:25 弟子がその師のようであり、僕がその主人のようであれば、それで十分である。もし家の主人がベルゼブルと言われるならば、その家の者どもはなおさら、どんなにか悪く言われることであろう。

10:26 だから彼らを恐れるな。おおわれたもので、現れてこないものではなく、隠れているもので、知られてこないものはない。

10:27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめよ。

10:28 また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。

第一の死は肉体の死です。迫害にあって、この身体のいのちに触れることが出来たとしても、第二の死、裁きに会うために死後神の前に立つとき、そこで下される第二の死をこそ私たちは恐れるべきです。

スミルナのあの高台の競技場で、ポリュカルボスは見事に信仰にあって走り抜きました。彼は死に至るまで忠実でした。その彼には、いのちの冠が贈られました。

御靈が教会に語る事、それは、私たちは勝利を得る者であるという事、そして第二の死によって滅ぼされないという事です。悪魔は私たちが落後するように試し、罠を仕掛け、困難を

敷き詰めて、獄に入れ、私たちの信仰が失われることを画策します、しかし主は知っておられます。初めであり、終わりであり、常に離れずに寄り添ってくださる方が、そして一度死なれましたが、生き返った方が私たちと共におられ、苦難と欠乏の中にも満たし、富んだ者として下さるという事に感謝いたします。

「あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない」、そして、
2コリント 6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、
6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。
この御言葉の通り、貧しいようでもすべてのものを持っている、富んでいて、第二の死によって決して滅びることはないことを心に刻み、限りある苦難の時を忍び、いのちの冠を望んで今週も信仰にあって走りゆきたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。栄華を極めた街の中、キリスト者には襲いかかる迫害の苦しみや貧しさがありましたが、実は富んでおり、悪魔がほえたけっていても恐れることはなく、苦難の時には限りがあり、神様からのご褒美はいのちの冠、肉体の死をもってもその後に永遠の命が待っていることに感謝を申し上げます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン